

たかはな

☆シリーズいじめ③☆ ～^{くら}比べる^{あいて}相手は?～

『いじめ』は時として、自分と他人を比べて、『自分よりできる・できない』という視点を持つことから始まります。『自分は早く走れるけど、あの子は走るのが遅い。』とか、『自分はテストで100点を取ったけど、あの子は50点だった。』とかいう、結果だけを見て他の人を自分の下に置いてしまう気持ちも、自分自身が確立していない『幼い』あるいは『未熟』な人間の心に入り込むと、往々にして『いじめ』に発展することがあるような気がしています。

しかし、考えてみてください。子ども同士がお互いを比較して、『あの子よりはできる』『あの子よりはうまい』と思うことが、その子にとってどれほどの値打ちがあるのでしょうか。人にはそれぞれの『持ち味・個性』というものがあります。何をするにしても簡単にできてしまう人と、何度やってもうまくいかない人がいるのは当たり前です。私は、特に子どもの段階で大切にしなければならないことは、『できた』『できなかった』よりも、『その人がどれだけがんばったか』だと考えています。結果だけを見て、『できたからいい』『できなかったからだめ』と決め付けることは、あまりにも弊害が大きいと言えないでしょうか。言い方を変えれば、子どもの世界では、『できなかったけどがんばった』ことと、『がんばってできた』ことは、仲間として同じように大切にしなければならない、ということです。『できた・できなかった』という結果ではなく、『どれだけがんばったか』という経過を大切にして子どもたちがお互いを見つめるようになれば、今よりもっと温かい人間関係が生まれてくるのではないのでしょうか。大人でも子どもでも、自分自身が比べなければならないのは、周りにいる人たちではなく、『以前の自分』なのですから。『今までより少しがんばった自分』を目標にして、私自身も子どもたちのためにがんばっていきたくと思っています。

----- 切り取り線 -----

()年 ()組 名前《 _____ 》

A[_____]載せない B[_____]匿名なら載せてもいい C[_____]名前入りで載せてもいい

